

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部看護学科

名前 伊藤 久美子

作成日 2024年2月26日

【責任】看護学科 2～3 年生に対して看護学の中の母性看護学関連（概論、援助論、援助論演習、援助技術論演習、実習）の教育、3 年生の看護倫理、家族看護論、4 年生に対する卒業研究指導、修士課程の院生への研究指導などを行っている。また、2020 年度入学生の担任として国家試験、卒業を迎える学生の学修支援活動を行っている。

【理念】

専門科目の教授では、看護は人の生命にかかわる職業であるため、学生が看護行為をする際に 根拠に基づいた判断・実践 ができるような支援を心がけている。また、講義・演習では、母性看護の実践に必要な知識を暗記ではなく、その根拠を理解できるようになってほしい。また、母性看護は妊娠・出産・育児や女性の生涯にわたる健康支援をするため、疾患を有した人への看護を学修する他の看護領域と異なり、看護師として母性看護関連に就職を考えていない学生、特に男子学生には学修の必要性を感じにくい場合もある。しかし、女性の患者や男性患者の家族である女性への関わりを行う際には、母性看護の視点は重要 である。また、性と生殖に関する健康は、現在の自分自身にとっても重要なこと であることを認識して欲しい。

対人職業人は自分自身が健康でなければ、対象者に寄り添った看護ができない。人に寄り添うためには、自己肯定感を持ち、人間の多様性を理解 することも必要である。本講義や大学生活、家族・友人との関わりを通して、それらに気づき、高めていってほしい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するため、学生が「根拠に基づいた判断、行動ができる」、「母性看護学の対象である女性のライフサイクルに応じた心身の健康への理解と共感」、「自己肯定感を高め、人間の多様性を理解する」という方針で教育している。

「根拠に基づいた判断、行動ができる」

- 授業では、講義資料に生理学的な機序や根拠も合わせて記載し、動画活用や資料に教科書の該当箇所を載せて授業や復習により理解が深められるようにする。
- 小テスト2回、課題入力2回、授業感想入力により学生の理解状況を確認しながら進める。
- 授業後の質問・感想についての回答を次回講義の冒頭で全体にフィードバックする。
- 3年前期の援助技術論演習では、紙上事例のアセスメント課題に際して、判断根拠を記載するよう指示し、授業開始前に提出させ、その内容を確認して誤った認識・不足している事項について全体および個別フィードバックを行う。
- ゼミ生への研究支援では、学生の興味関心のあるテーマをもとに研究テーマを決めている。また、教員が指示的に進めていくのではなく、学生間の議論から研究を勧められるよう促している。

「母性看護学への理解と共感」

- 母性看護学概論の第 1 回目で、授業終了後に「自分にとっての母性看護を学ぶ意味」について UNIPA へ課題入力を行い、記入することで意識化を図っている。
- 授業では、自分の中高生の時はどうだったか、母親、祖母の場合はどのように学生の身近な人にも関わる健康支援であることを説明している。
- 母性看護と他の領域との共通点、相違点を概論で概説し、それ以外の科目でもウェルネスの視点に基づいた対象理解と支援について伝えている。
- 性や生殖に関するトピックスを講義の中に入れて、現在の女性やその家族を取り巻く状況の理解と問題意識をもてるようにしている。

「自己肯定感を高め、人間の多様性を理解する」

- 自分の考えを表現し、他者の考えを聴く場を設ける（授業中の発言、グループワーク、UNIPA への質問・感想入力など）
- 学生の発言・提出物へポジティブフィードバックする。
- よかった点は個別および集団へフィードバックする。
- 学生の考えを尊重する。
- 質問・感想の場を設ける。
- 卒業研究では学会発表を行い、研究成果を発表することの達成感、他の発表を聴いての研究的思考を高める。

【成果・評価】

- 担当した専門科目 5 科目の授業アンケートにおいて、約 7 割が「知識・技術を身につける工夫がなされた」「フィードバックが十分に行われていた」と回答している。
- 講義資料はボリュームがあるがわかりやすいとの感想があった一方で、もう少し早めに UNIPA にアップしてほしい、講義内容が多すぎて何が重要なのがわかりにくいとの感想もあった。
- 卒業研究では、学外の学会発表（日本母性衛生学会。日本助産学会など）への支援を行った。

【目標】

<短期目標>

- 学生の考えを表出する場を多く設けて、ポジティブフィードバックする。
(毎回の講義)
- 学生の授業アンケートで「授業への興味や問題意識を持つことができた」「学生の反応を確認していた」で、「そう思う」と「非常にそう思う」を 8 割以上にする。また、回答率を 6 割以上とする。
(学期末)
- 他領域の看護との共通性と特殊性を整理して伝える。(学期末)
- 講義内容を絞り、学生との意見交換ができる時間を設ける。(毎回の講義)

<長期目標>

- 卒業研究を学会で報告し、学生の論文投稿の支援を行う。
- ゼミ生から大学院進学者が出るように意識付けを図る。